

屋郡和自駅前安河内三郎宛末援の時付古加見下
 車して傳多線新古加見駅から上車して三ツ野駅(和自駅の一
 前)で下車其処から鉄道線路に副つて和自駅前三丁程に
 少さの鉄橋があるを川を越へずたりに二丁程下る其処から
 石に田圃を横切ると火の見の下に橋がある国岡表具店
 (松田氏)を同じ川を事九州版の編輯は佐々木房と相談し
 やつて世夏つて僕のかを書くと事は不可能だと思ふから御地は勝午
 によつて呉れ其の他新聞等に干する事はたつた。
 福岡からの紙代は二三日中には着く豫定だ

(秀) 下届若し来たらず急に古加見に来り世夏つて僕に呉れ
 (願む)

